



先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/11/01

米大統領選挙の行方なども手掛かりに

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	米国の景況感と財政の崖	2 - 3
		予想レンジ: 77.00 ~ 82.00 円	
カナダ/円	➡	外部要因睨み	4 - 5
		予想レンジ: 78.00 ~ 82.50円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



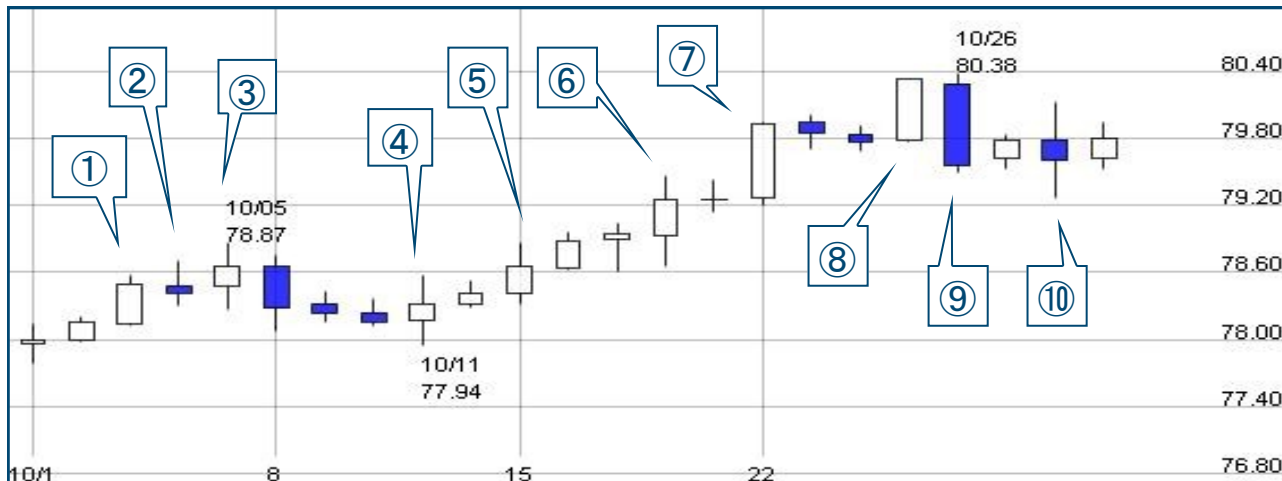
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	77.96円	80.38円	77.79円	79.80円



- ① 3日、米9月ADP全国雇用者数が16.2万人増(市場予想:14.0万人増)、米9月ISM非製造業景況指数が55.1(同:53.4)と双方予想を上回ったことから、ドル/円は78.58円まで上昇した。
- ② 4日、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨で「何名かのメンバーは追加資産購入が出口戦略を複雑にしていると指摘」等との記載があったことを受けて、ドル/円は小幅に値を戻した。
- ③ 5日、米9月雇用統計において、非農業部門雇用者数は11.4万人増とほぼ予想(11.5万人増)どおりだったが、失業率が7.8%と約4年ぶりの水準まで改善した点を好感してドル/円は78.87円まで上昇した。
- ④ 11日、夕方以降にクロス円の上昇や「本邦携帯電話大手のソフトバンクが米携帯電話大手のスプリント・ネクステルを買収方向で協議入り。買収総額は15兆円を超える」との報道を受けて円売り・ドル買いが加速。さらに、米新規失業保険申請件数が33.9万件と予想(37.0万件)より強い結果となったことや、前原経済相が「日本が米国の同意なしに単独介入することは可能」等と発言したことも追い風となった。
- ⑤ 15日、本邦企業による海外企業買収に絡む円売りの思惑を受けてアジア市場中からドル/円は上昇。さらに米9月小売売上高が前月比+1.1%と市場予想(+0.8%)を上回ったことを好感して米長期金利が上昇すると、ドル/円は上げ幅を拡大した。
- ⑥ 18日、前日のNYで浮上した「日銀が30日の金融政策決定会合で追加緩和に動く可能性」との思惑による円売り、米10月フィラデルフィア連銀景況指数の好結果(5.7、予想:1.0)などを受けて上昇した。
- ⑦ 22日、日銀の追加緩和観測が漂う中、まとまった規模の円売り注文が入るとドル/円は上昇。格付け会社S&Pが「(財政の)赤字トレンドが現在のままであるならば、日本の格付けを引き下げる可能性も」との見解を示した事も、円売り材料視された。
- ⑧ 25日、日経新聞が「日銀は30日の金融政策決定会合で、資産買入等の基金を10兆円積み増す案を軸に検討する」等と報じたことが円売り材料となった上、米新規失業保険申請件数が36.9万件(市場予想:37.0万件)、米9月耐久財受注が前月比+9.9%(予想:+7.5%)と、予想より良好な結果となったことを受けたドル買いによってドル/円は上昇した。
- ⑨ 26日、米第3四半期国内総生産(GDP)・速報値は前期比年率+2.0%と予想(+1.8%)を上回ったが、反応は限られ、その後は全般的なドル売りの流れの中で失速した。
- ⑩ 30日、日銀金融政策決定会合が長引いたことから追加緩和への思惑が強まり、80.00円目前までジリジリと上昇。日銀が総額11兆円の追加緩和を発表すると、80.18円まで上昇した。しかし、緩和規模が事前の市場予想とほぼ変わらなかったことから、その後は失速。79.27円まで値を下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

今月のポイント

10月のドル/円相場は77.79～80.38円のレンジで推移。月間の終値ベースでは2.3%の上昇(ドル高・円安)となった。この月は、月初は材料難の色が濃く、78円台で概ねもみ合った。しかし、中旬以降は日銀の追加金融緩和に対する思惑や、日本の企業による海外企業買収に絡む円売り・ドル買い、日本の格下げ懸念などによって円安が進んだ。

日銀の金融政策決定会合で追加緩和を決定、という大型イベントを通り過ぎたことで、ドル/円相場の関心事は再び米国に戻ってきたと考えて良さそうだ。まずは米国の各経済指標結果をながめつつ、米国の景況感を見て行く流れになるだろう。12月の米連邦公開市場委員会(FOMC)でのツイスト・オペ(12月で終了予定)の延長の有無などを量って行く形になると見る。

また、今月は「財政の崖」の問題にも注目したい。6日に行われる米大統領選の結果や、その結果を受けて財政の崖問題(2013年からブッシュ減税の期限切れ(≒実質的増税)と歳出削減の二つによって崖から急落するような財政の引き締めが起こってしまうこと)を上手く解決に向かわせられるのかどうか、これが注目されることとなるだろう。この問題の解決が困難な様子を示す報道などがあれば、米格下げ懸念などを絡みつつドル売りが強まる可能性がある。

米国の景況感および財政の崖に絡む報道の2軸をもって、ドル/円は5月から続く77円台から81円手前でのレンジ相場をブレイクできるかに注目したい。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 77.00～82.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

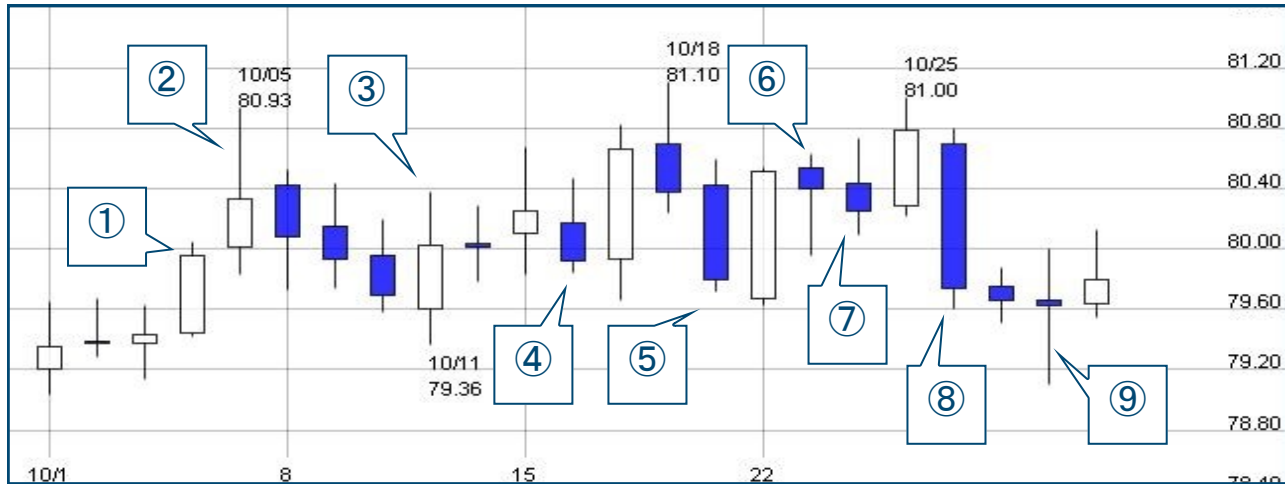
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(木)	10月米ADP全国雇用者数		FOMC議事録(10月23・24日分)
	10月米ISM製造業景況指数	11/15(木)	10月米消費者物価指数
11/2(金)	10月米雇用統計	11/16(金)	10月米鉱工業生産
11/5(月)	10月米ISM非製造業景況指数	11/20(火)	日銀金融政策決定会合(19日～発表)
11/8(木)	9月日経常収支		10月米住宅着工件数
	10月日機械受注	11/21(水)	10月日通関ベース貿易収支
	欧州中銀金融政策発表	11/26(月)	日銀金融政策決定会合議事要旨(10月30日分)
	8月米貿易収支	11/27(火)	10月米耐久財受注
11/9(金)	10月中国消費者物価指数		11月米消費者信頼感指数
	11月米シガン大消費者信頼感指数・速報値		11月米リッチモンド連銀製造業指数
11/10(土)	10月中国貿易収支	11/28(水)	10月米新築住宅販売件数
11/12(月)	第3四半期日GDP・一次速報	11/29(木)	第3四半期米GDP・改定値
11/14(水)	10月米小売売上高	11/30(金)	11月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	79.20円	81.10円	79.03円	79.80円



- ① 4日、トルコ国会は前日のシリア軍による砲撃への報復措置として、シリアへの越境攻撃を承認した。これを受けて原油価格が前日比で4%程度的大幅上昇となるとカナダ/円は一時80円台を回復した。
- ② 5日、加9月雇用統計は失業率が7.4%と予想(7.3%)を上回ったものの、雇用者数ネット変化は5.21万人と予想(1.00万人増)を大幅に上回った。また、同時に発表された米9月雇用統計でも失業率が7.8%と2009年1月以来の水準に低下した。カナダ/円は、加雇用統計を好感した買いに加えNYダウ先物の上昇を背景とした買いが集まり、80.93円まで急騰した。
- ③ 11日、「ソフトバンクが米携帯大手スプリント・ネクステルの買収を検討」との一部報道をきっかけに円売りが強まると、カナダ/円は上昇。更にその後、前原経済相が「日本は米国の同意なしに単独で為替介入を実施できる」と発言した事も円売りに拍車をかけ、カナダ/円は80.38円まで上昇した。
- ④ 16日、カナダ中銀(BOC)のカーニー総裁が講演で「次回の中銀見通しでは世界経済のリスクを考慮し調整する」と発言すると、BOCが23日の理事会で利上げスタンスを撤回するとの見方が広がり、カナダドル売りが優勢となった。
- ⑤ 19日、加9月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.2%と予想(+1.3%)を下回る伸びにとどまり、BOCが注目するコアCPIも前年比+1.3%と予想(+1.4%)を大きく下回った。さらに、低調な米企業決算を嫌気してNYダウ平均が一時200ドル超下落、原油価格も2ドル超下落する中でリスク回避の動きが強まり、カナダ/円は79.72円まで下落した。
- ⑥ 23日、BOCが政策金利の据え置きと同時に発表した声明で「金融刺激策を徐々に、幾分緩やかに解除する事が必要になるだろう」と、予想に反して利上げスタンスを維持すると、カナダ/円は一時80.63円まで上昇。しかしその後は冴えない米企業決算を嫌気してNYダウ平均が大幅に下落したため反落した。
- ⑦ 24日、BOC四半期金融報告で第3四半期の成長率予想を2%から1%に引き下げた上、カーニー総裁が「金利を調整する可能性はこれまでほど差し迫っていない」と発言すると、カナダ/円は急落した。
- ⑧ 26日、ドル/円の下落(日銀の追加緩和期待で上昇した反動によるポジション調整と見られる)につれた他、格付け会社ムーディーズが「カナダの6銀行の格付けを引き下げる公算が大きい」との見解を示した事が売り材料となり、カナダ/円は79.60円まで下落した。
- ⑨ 30日、日銀が金融政策決定会合後に資産買入れ基金の規模を11兆円増額する追加緩和を発表するとカナダ/円は80.00円まで上昇。しかし、緩和規模がほぼ事前報道(10兆円)どおりだった事から急速に売り(円買い)に転じると79.10円まで下落した。ただ、その後はスペインの第3四半期成長率が予想ほど悪化しなかった事などから欧州株が堅調に推移すると下げ幅を縮小した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今月のポイント

10月のカナダ/円相場は79.03円～81.10円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.6%の小幅な上昇となった。カナダドルに雇用の増加や利上げスタンス継続といった買い材料が目立ち、円には追加緩和観測など複数の売り材料があった割にはカナダ/円の上昇は限定的であり、79円台前半から81円付近のレンジで上下動を繰り返すなど方向感に乏しい展開が続いた。10月5日の米雇用統計発表後に2007年12月以来の高値となる13661.87ドルを付けたNYダウ平均が、冴えない企業決算が相次いだ事などから伸び悩んだ他、原油価格も約3カ月半ぶりに84ドル台まで下落するなど、中旬以降はリスク・オンムードがやや萎んだ事がカナダ/円の上値を抑えたと見られる。

11月のカナダ/円についても、外部要因に左右される展開が続きそうだ。米10月雇用統計をはじめとする経済指標や、6日に行われる大統領選の結果(ロムニー氏勝利なら株高、オバマ氏勝利なら株安と考えられている)が注目されよう。また、欧州では、引き続きスペインによる支援要請の有無、ギリシャの追加債務再編の可能性などが焦点となろう。その他、中国で発表される経済指標の結果も投資家マインドの強弱に影響を与える事になりそうだ。

11月はカナダ中銀(BOC)理事会が開催されないため、金融政策が焦点にはなりにくいと見られるが、カーニー総裁が、講演や会見で金融政策に言及すれば材料視されるだろう。(神田)

(予想レンジ: 78.00～82.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(木)	10月中国製造業PMI	11/10(土)	10月中国貿易収支
	10月米ISM製造業景況指数	11/12(月)	第3四半期日本GDP・一次速報
11/2(金)	10月米雇用統計	11/14(水)	10月米小売売上高
	10月加雇用統計		米FOMC議事録(10月23・24日分)
11/5(月)	9月加住宅建設許可	11/16(金)	10月米鋳工業生産
	10月米ISM非製造業景況指数	11/19(月)	10月米中古住宅販売件数
11/6(火)	10月加Ivey購買部協会指数	11/20(火)	日銀金融政策決定会合
11/8(木)	9月日本機械受注		10月米住宅着工件数
	9月日本経常収支・貿易収支	11/21(水)	10月日本通関ベース貿易収支
	10月加住宅着工件数	11/22(木)	9月加小売売上高
11/9(金)	10月中国消費者物価指数	11/27(火)	10月米耐久財受注
	10月中国鋳工業生産	11/30(金)	9月加GDP
	11月米シガン大消費者信頼感指数		第3四半期加GDP

巻頭の特記事項を必ずお読みください。